



わかやま

No. 5 9

和歌山県精神保健福祉センター 2014年5月

学校法人 りら創造芸術学園
りら創造芸術高等専修学校
校長 山上 範子

高校生演劇集団の創作活動

5月、学校のあるここ真国宮もやっと春らしくなってきました。

舞台・芸術活動を通して「生きる底力を身につける教育」を教育目標におき、自然が豊かで、地域に元気なお年寄りがいて、生きた知恵を生徒たちに教えてくれる。そのような環境の中に高等学校を設立して生徒たちを育んでいきたい。そう思って和歌山県真国宮の地に来て早いもので8年目を迎えました。開校当初は和歌山県出身の生徒が多かったのですが、今は和歌山県だけではなく全国から来てくれるようになり、寄宿舎で共に生活しながら元気に学生生活を送っています。また今年は大学へ進学していた一期生が就職の報告に訪れたり、卒業生が「りら」の職員となって帰ってきてくれたり、行事のたびに卒業生が手伝いにきてくれたりと、卒業しても学校と繋がってくれている生徒が増えていっていることも嬉しく思っています。

さて、今回は本校が発表してきた演劇の話をごさせて頂きます。本校は舞台・芸術を教育活動の中心においた学校として、今まで多くの公開行事や学校内外でのイベントにおいて、舞台作品の発表を行ってきました。その中に和歌山県からご依頼を頂いて本校で創作し生徒が発表した演劇が2作品あります。

2012年2月に公演した「自殺予防対策事業 演劇 NIGERAニゲラ」と2013年2月に公演した「児童虐待防止事業 演劇 Mother Wasn't Wanted」です。

「自殺予防」と「虐待防止」をテーマに演劇を創作して発表する。最初、和歌山県からこのお話を頂いたときに高校生にこの重いテーマで演劇ができるのだろうかという思いが頭をよぎり、躊躇もありました。しかし、県の担当の方から「自殺予防の啓発を今まで講演会や映像で伝えてきたけれど、もっと効果を上げて若い人たちにも知ってほしいし、命の大切さを伝えたい。そのための新しい試みとしてオリジナルの「演劇」作品を創作して啓発していきたい。学校の教育活動として演劇に取り組んでいる「りら」なら、若い人たちが観劇して心に響く作品を制作できるのではないだろうか」との趣旨をお聞きし、県の方の取り組む姿勢の熱心さに触れ、難しい課題だけでも、できるだけ内容に沿えるよう、学校としても授業の一環として取り組んでみようと考え創作をすることにしました。

しかしお引き受けしたものの一体どのような内容で進めていったらいいのだろうか、簡単に「自殺をしないで」とうったえても伝え方に工夫が無ければ心を動かすところまでには至らないことの難しさに直面しながら、担当の教員と生徒は何度も話し合いや制作上での試行錯誤を繰り返していきました。

生徒たちは、自分自身が虐待や自殺にかかわる経験があったわけではなく、なかなか実感を得られないことに戸惑いながらも、専門家の方のお話を聞きに出かけたり、家族と話し合ったりしながら、一つ一つのストーリーを組みあげる課程で、大変苦労しながらも、それぞれが演じる役柄に深く入り込んでいきました。

<P2下段へ続く…>

もくじ

- P1 高校生演劇集団の創作活動
- P2 シリーズセンター長だより／高校生演劇集団の創作活動（続き）
- P3 平成26年度精神保健福祉センター相談案内
- P4 <紹介>青年のつどいフリースペース／ひきこもり家族のつどい
- P5 和歌山メンタルヘルスニュース／研修会案内
- P6 はーとふるネットワーク／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター
〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階
☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

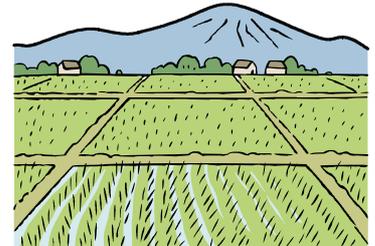


シリーズ センター長たより

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野 善郎

田舎からのチャレンジ

精神保健福祉にかぎらず、医療、福祉、教育などのあらゆる社会サービスにおいて、田舎は不利だと思われてきました。ちょうど30年前にヒットした吉幾三の『俺ら東京さ行くだ』は、無い無い尽くしの田舎をコミカルに歌い上げましたが、それ以後も都会と田舎の格差は広がる一方で、地方都市や農山漁村部で支援に携わる人たちのため息はますます深まるばかりだったように思います。和歌山で医療・福祉の領域で働いてきた私もそんなため息を付いていた一人でした。



でも、センター長になってからの4年間で、和歌山の地域で支援する人たちとふれ合う機会をつうじて少しずつ考え方が変わりはじめ、最近ではむしろ田舎の強みを生かした支援への期待の方が大きくなってきました。無いものをうらやむことから、有るものを生かすというものの見方への変換です。それは、コップに水が半分入っている状態を、「半分しか入っていない」と見ることから「半分も入っている」と見るようにすることです。最近、“Rural Social Work (田舎のソーシャルワーク)”という本と出会って、無理に都会の社会システムを真似るだけが正しいのではないことをあらためて認識したところです。



最近の就労支援では、安全な農作物の生産だけでなく、その加工と販売までも手がけるようになってきましたが、これこそ和歌山の強みのひとつだと思います。また、高齢者の技術と経験を生かした支援は、高齢化した地域の活性化にもつながり、田舎の不利を反転させ、新たに人を呼び込む可能性さえ秘めています。もっともっと自分たちの持っているものを生かしたチャレンジを続けることで、都会からうらやまれるような和歌山を目指していきたいものだと思います。

<P1から続き…>

死の世界の門番ニゲラが自殺を考える母親に死後の世界のことを伝える場面や、いじめにあっている学生の心の動きを演じる場面、また、病気で死を間近にしている学生との会話の場面など大事なシーンやそのなかの台詞のひとつひとつまでをみんなで考え細部まで丁寧に詰めて、15稿に及ぶ台本を何度も作り直して、どちらの作品も2時間の大作に仕上げ発表することができたのです。

この体験は、そのとき係わった生徒にとってはとても貴重な学びになったと思います。

「自殺、虐待」、自分たちからは遠いものと思っていたことが、実は身近にあるもの、そしていつ自分がそうなるかもしれないということが作品を通して理解できたと終演後の生徒の感想文に書かれていました。そして、そのような状況に陥っていくのは、身近に相談できる人がいないことや、相談機関があることを知らないからであって、自分だけが抱え込むことのないように、もっともっと啓発活動を行っていくことが大切なのだということも本当に理解できたと話していました。

そのような経過を経て、本年度も和歌山県から「薬物乱用防止」のための演劇作品制作のお話をいただき制作活動に入っています。

今回のテーマも、「自殺」、「虐待」と同じように大変重いテーマです。生徒にとっては距離感のあるものです。それでも生徒達は、これまでの作品と同様、授業を通して真剣に取り組み出しました。また、今回は県内7カ所の中学校または高校での公演が予定されていて、直接、同世代の生徒の前で発表する機会が与えられます。同世代の若者にどれ位このような大事な内容を伝えることができたのか、その反応を目の前で見ることができます。そのようなこともあって、今回の事業においても、本校の生徒にとって必ず大きな学びになると確信すると共に大変ありがたく思っています。

演劇作品を作ることで、啓発事業普及のためのお手伝いをさせていただきながら、大きな役目に責任を持ち、自分たちも学んでいく。

さあ、今回も試行錯誤しながら創っていく演劇。皆様、是非ともこの機会に生徒たちの頑張る姿をご覧くださいませ。

高校生演劇集団「りらキャラバン隊」が出動します！！

平成26年度 精神保健福祉センター相談案内

●自死遺族相談（要予約）

自死（自殺）により大切な人を亡くされた方を対象に、死別による悲しみから回復することをお手伝いする相談をおこなっています。

対 象：自死（自殺）により大切な方を亡くされた方
（家族・知人・友人）

日 時：第2月曜日 16:00～20:00
第4月曜日 13:00～17:00

※都合により、日程が変更される場合があります。



●わかちあいの会和歌山「うめの花」（要予約）

自死（自殺）により大切な人を亡くされた方どうしが、悲しみや苦しみを安心して語ることができるわかちあいの会を開催しています。

対 象：自死（自殺）により大切な方を亡くされた方
（家族・知人・友人）

日 時：平成26年
6月14日（土）13:30～15:30
8月 8日（金）19:00～21:00☆夜間☆
10月11日（土）10:30～12:30
12月13日（土）13:30～15:30
平成27年
2月14日（土）13:30～15:30

●思春期・青年期 特定窓口相談（要予約）

専門の医師による思春期、青年期の相談窓口を設置しております。思春期、青年期に特有の悩みや精神疾患、不登校やひきこもり等の相談に応じます。

対 象：思春期、青年期の問題を抱える本人やご家族
（県内に在住の方）

申込み：精神保健福祉センターに電話にてご連絡ください。
073-424-1713（いっぽライン）
受付時間：9:00～17:45

●青年のつどい フリースペース

対人関係やひきこもりの問題を持つ方を対象に、自由に過ごせる憩いの場を設けています。

対 象:和歌山県在住のひきこもり状態にある方
日 時:毎週火曜日 13:00~16:00
申込み:精神保健福祉センターにご連絡ください。

※スタッフが個別相談に応じます



◇青年のつどい フリースペースの様子◇



●ひきこもり家族のつどい

ひきこもりの問題を抱える家族どうしが、気持ちのわかしあいや情報交換のできる場を設けています。

対 象:ひきこもりの問題を抱えた家族
日 時:毎月第3水曜日 13:30~15:30
申込み:不要



研修案内

※こころの研修会

講演会

“分からないけど、わかりたい
—大切なひとを無くした方への支援—”

講師：弘中 照美 氏

(多重債務による自死をなくす会) 理事長

日時：平成26年7月5日(土) 13:30~15:00

場所：和歌山ビッグ愛2階 201会議室

対象：どなたでもご参加いただけます

* 講演会終了後、交流会を開催します。

日時：平成26年7月5日(土) 15:10~16:30

場所：和歌山ビッグ愛2階 201会議室

連絡先：和歌山県精神保健福祉センター

電話073-435-5194

FAX073-435-5193



※思春期精神保健福祉セミナー

講演会

「できるのにやらない」
「わかっているのに動かない」のはなぜ？
～実行機能から考える思春期の行動～

講師：バーンズ亀山静子 氏

ニューヨーク州公認 スクールサイコロジスト

日時：平成26年7月28日(月) 13:30~15:30

場所：和歌山ビッグ愛2階 201会議室

◇対象：教育・行政・医療・施設等の関係者で
興味、関心のある方

◇内容：講演会

◇参加費：無料

◇定員：90名

◇申込方法：和歌山県精神保健福祉センター

FAX 073-435-5193

FAXにてお申込下さい。

※こころと命の講演会



講演：「こころが軽くなる気分転換のヨツ」

講師：国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター所長 大野 裕 氏

講師プロフィール

1950年愛媛県生まれ。1978年、慶應義塾大学医学部卒業と同時に、同大学の精神神経科学教室に入室。その後、コーネル大学医学部、ペンシルバニア大学医学部への留学を経て、慶應義塾大学教授(保健管理センター)。近年、精神医療の現場で注目されている認知療法の日本における第一人者であり、日本認知療法学会理事長。

日本ストレス学会副理事長、日本心身医学会理事、日本精神神経学会評議員など、諸学会の要職を務めている。

主な著書に、「心が晴れるノート：うつと不安の認知療法自習帳」、「「うつ」を治す」などがある。

日時：平成26年7月4日(金) 14:00~16:00 (受付13:30~)

場所：県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 1階大ホール

定員：200名(定員に達し次第、申し込みを締め切ります)

申込先・申込方法：

和歌山県精神保健福祉センター

電話またはFAXでお申し込みください。

TEL：073-435-5194 FAX：073-435-5193

※受講料：無料

※手話通訳・要約筆記有り

※一時保育：0才から小学校低学年までのお子さんをお預かりします。



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、障害者就業・生活支援センター「つれもて」就労支援員 澤田 淳さんです。

はーとふるネットワーク



ー障害者就業・生活支援センター つれもてとはどのような機関なのですか？

障害があり、就労前または就労後のサポートが必要な方に対して就労支援および生活支援を行っているセンターになります。就労支援と生活支援とを一体的に取り組んでいるのが就業・生活支援センターの特色です。

ー具体的にどのように相談に対応されるのですか？

初めて当センターに相談される方については、まず電話での予約をお願いしています。その時に相談したい内容を軽くお聞きし、面談にてより詳しい内容を聞き取らせてもらいます。面談を重ねる中で、相談者の課題を解決でき、また想いを実現できるような計画を共に考えて実行に向けたサポートをしていきます。

ーこの仕事をされるきっかけは？

「仕事」が人に与える影響の大きさに気付いてから、より良く働くことを通じて充実した人生を送れる人が少しでも増えてほしいという想いが自分の中に芽生えて、今の仕事をしようと思いました。

ー最近のトピックがあれば教えてください。

私事ですが、福祉職場で働く若手の交流会を数名で計画しています。今後お会いする機会があった方へはお声をかけさせてもらってもいいかもしれませんがその際はよろしくお願ひします♪

ー今後の抱負を教えてください。

就職をしても短期間で辞める方が多い現状があることから、本人が長く働き続けられ、かつ本人および事業所がwin-winの関係になれるような取り組みに力を入れていきたいと思っています。



ー麦会 障害者就業・生活支援センター つれもてのPRを短くどうぞ。

「つれもて」は“一緒”に、という和歌山の言葉です。マラソンで例えれば伴走者のように、相談に来られた方に寄り添った支援を心がけており、皆さんと共に歩み続けるセンターで在りたいと思っています。

ー次の方のご紹介とその方へのメッセージをお願いします。

つれもてからも近く美園商店街のそばにある、ももたにクリニックのデイケアに勤められている峰政さんにながみます！プライベートでの関わりが多いですが、仕事のことについてもこれから色々教えていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします()/



編集後記

2月に詩人のまど・みちおさんが亡くなりました。まど・みちおさんといえば「ぞうさん」や「やぎさんゆうびん」が誰でも一度は口ずさんだ歌として思い浮かびます。これらの優しい童謡詩の他にもすばらしい詩があります。「ぼくがここにるとき、ほかのどんなものもぼくに かさなってここに いることは できない もしもゾウがここにいたらそのゾウだけ...」ゾウもマメもそこには彼しかいることができない。だから地球の上ではこんなにも大事に守られていると続くのです。なんと勇気づけられることばでしょう。また、これはあのロールシャッハテストの「具象的に存在するものには空間占有性がある」という理論をまさに表現した詩でもあると思います。100歳を過ぎても新しいことを探していたまどさんは、科学的な視野をもった詩人でもあったのですね。



